

生物基礎

第3問 A 問2

与えられた情報と知識を関連づけて考察する問題で、各学力層で差がついた

図1は、日本のある地域の海岸に人工につくられたクロマツ海岸林のようすを示している。この海岸では、西からの強い季節風と平行になる方向に人工的な砂丘をつくり、クロマツを植林しているが、マツ枯れや管理放棄の後、広葉樹への植生遷移が進行していることが、調査の結果わかっている。図2は、この海岸林について、クロマツが20%以上を占める植生(クロマツ混在タイプ)と20%未満である植生(広葉樹優占タイプ)が占める面積の変化を示している。

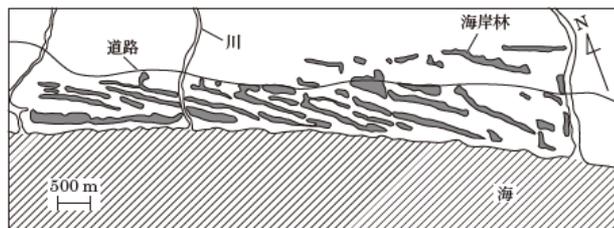


図 1

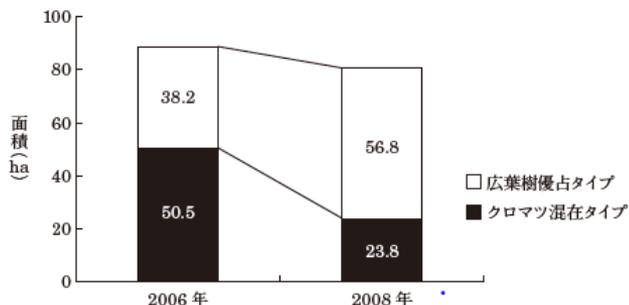


図 2

問2 下線部(b)に関連して、この調査では、複数の調査地にみられる植物の特徴をもとに調査地を4グループ(I~IV)に分けている。表1は、その結果の概略をまとめたものである。上の文章や表1から推論できることとして最も適当なものを、下の①~④のうちから一つ選べ。 14

表 1

	調査地のタイプ	植物の特徴
I	陸側海岸林・北側斜面に多くみられる	クスノキなどの高木性の樹種や内陸性の樹種が多い傾向がみられた。
II	海側海岸林・北側斜面に多くみられる	クロマツもあるが、クスノキなどの高木性の樹種が優占する傾向がみられた。
III	陸側海岸林・南側斜面に多くみられる	クスノキはみられず、低木性の樹種が優占する傾向がみられた。
IV	海側海岸林・南側斜面に多くみられる	クロマツもあるが、低木性の樹種が優占し、海岸性の樹種が多い傾向がみられた。

- ① クロマツの海岸林なので、調査地は北海道である。
- ② クロマツの海岸林なので、調査地は九州地方である。
- ③ 遷移が進むとクスノキがみられることから、調査地は東北地方である。
- ④ 遷移が進むとクスノキがみられることから、調査地は中部地方である。

第3問 A 問2

正解率	31.9%
SS65~70	65.1%
SS60~65	51.6%
SS55~60	40.8%
SS50~55	32.4%
SS45~50	25.5%
SS45未満	16.5%

2021年度第1回ベネッセ・駿台  
大学入学共通テスト模試  
「生物基礎」

受験者数:	109,382人
平均点:	24.6点
標準偏差:	9.7

## 生物基礎

## 第3問 A 問2

## 与えられた情報と知識を関連づけて考察する問題で、各学力層で差がついた

## 結果分析

第3問A問2は、植生の調査地について、調査結果をまとめた表や問題文中の情報、およびバイオームに関する知識を関連づけながら考察する問題で、各学力層で差がつかしました。

本問に取り組むために必要な知識は、クロマツとクスノキの遷移における特徴です。この知識に、問題文で述べられている、このクロマツ林が人工的な植林でつくられたものであることと、同じく問題文で述べられている管理放棄の結果、クスノキ（表1の情報）が現れたことを関連づける力が求められました。そして、人工的な植林で自然の植生を判断することが科学的ではないことをふまえ（選択肢②は知識として妥当だが、この設問の解答とはならない）、クスノキで植生を判断した選択肢④が妥当であることを導くことが必要でした。本問では、このような情報の使い方差がつかしたと思われる。

## 指導のご提案

上で述べたように、本問を知識だけで解答しようとする、選択肢②と④の正誤の判断がつかしません。共通テストでは知識のみで解答できる問題もありますが、今回のような問題も考えられます。本問を例にその対策として、知識のみで選択肢の正誤を判断できない場合には、問題文や図表にヒントが隠されているので、それを探すように、といったご指導が有効であると考えます。なお、情報を関連づけて考えるための知識は必須ですので、これから共通テストまでの2か月半で、教科書レベルの知識をさらに定着させていくことが重要であると考えます。

実践形式の類題演習の  
ご提案ページへ